

巻頭言

仙台市立病院 事業管理者 遠藤 一 靖

仙台市立病院医学雑誌第32巻が刊行されることになり、うれしく思っています。

今年度は災害報告1編、原著2編、症例報告11編、コメディカルレポート2編で、計16編の論文と学会報告、著書一覧、救急センター症例検討会一覧、剖検記録、CPC記録、各科カンファレンス記録を掲載しています。当院における昨年度の学術的活動の集約とってよいでしょう。

この中でも研修医、レジデントの諸君の投稿が7編あったのは大変喜ばしいことです。若い先生方にはまず症例報告を積極的に投稿してほしいと願っています。症例報告は医学論文作成の出発点で、非常に重要です。症例を報告として残すためには、詳細な観察に基づく記載、問題点についての考察、指導医とのディスカッション、文献検索が基本構築となります。次に必要な要素はその症例の希少性、報告する意義、今までの報告症例を適切に要約した記述と考えられます。ここではどうして“報告する価値がある症例”であるかを明確に示すことが重要で、そのためには他の報告症例を集計する必要がある、国内外の報告例をまとめて読者に示します。そして、その症例報告を臨床面でどう役立てていくことができるかを明らかにできれば、症例報告の価値がさらに高まると考えられます。その際、日本で数例という極めて稀な症例だけでなく、比較的稀な症例の場合でも病態、経過、治療効果などを詳しく検索し、その成果を他者に説明することは自分の知識や理解を深めることができるので大変効果的な学習になります。このように、症例報告にはいくつかの意義があります。大切なことは、どの場合でも学会発表だけでなく、文書で記載し公表することです。文書にして他人に説明することで自分の学習レベルが深まるとともに、しっかりと記憶することができます。しかしながら、最近はこの雑誌も症例報告を掲載するスペースが少なくなっておりハードルが高くなっているのが現状です。その点、本誌は院内からの論文をできるだけ掲載するよう努め、細かい指導をして発表の場を提供しています。若い諸君の論文作成の第一歩として、症例の提示の方法、文章の書き方、図表の提示の仕方、論文の引用の仕方などを学ぶ絶好の機会です。

さらに、研修医、レジデントだけでなく、常勤医の学会や研究会で発表した臨床研究や“日常診療のまとめ”などの日頃の努力した成果の投稿、さらにコメディカルレポートなど各職種からの業務に関する投稿を望んでいます。あまり難しく考えないで論文にまとめて記録として残すことに意義を見出し気軽に投稿してほしいものです。

因みに、本誌は国内最大の医学文献情報データベースである“医学中央雑誌”の論文検索対象となる検索収載雑誌（コードJ00769）になっていますので、本誌で発表された論文は国内で広く活用されますし、大きく言うと日本の医学の進歩に寄与できます。

本誌が仙台市立病院の医療の質の向上、医療人としての専門知識、技術の研鑽に寄与するように育ってほしいものです。

最後に、忙しい日常診療の中で今年度の「医学雑誌」に論文を投稿された方々、それを指導された方々、そして「医学雑誌」の刊行に携われた編集委員会の長沼委員長、各委員に深謝いたします。